

CASSIOPEIA NKANI

CASSIOPEIA—UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



タージ・パモジホテルで開催されたルサカ州医療機器管理ワークショップにて、プロジェクトの塩田専門家とルサカ州保健局のソフィア・ムシスカ氏。

日本の財務省・外務省
代表団がチレンジエ病
院を視察

医療機器に関わる医療
関係者が医療機器ワー
クショップで一堂に会
し、対象 5 病院での医
療機器管理体制がルサ
カ州全域に普及への一
歩となる

パブリックヘルス専門
家と開発パートナー、コ
レラ対策の今後の進め
方に合意

日本の財務省・外務省代表団が チレンジエ病院を視察



代表団の団長、日本財務省予算局企画管理課の白石大祐氏(中央)

4月18日、日本の財務省、外務省、JICA東京本部からなる代表団がチレンジエ病院を視察しました。代表団は、リチャード・ムウイラ院長と病院執行部メンバーから、日本政府をはじめとしたJICAの支援が、同病院の医療提供にどのように役立っているかを聞き、カシオペア・プロジェクトの支援についても意見を交換しました。

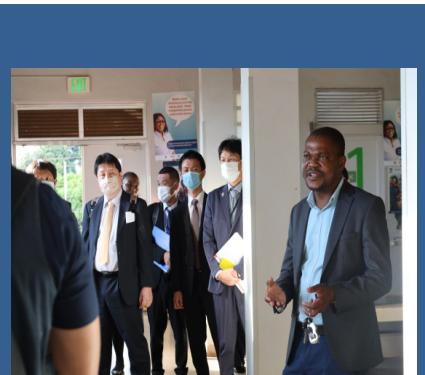
代表団を出迎えたのは、プロジェクト関係者の泉恵太氏(JICAザンビア事務所次長)、カシオペア・プロジェクトの日本人専門家、ルサカ州保健局臨床医療専門家のソフィア・ムシスカ氏、チレンジエ病院のリチャード・ムウイラ院長、マーシー・

ンディンブワ病院事務長等、各部門の職員でした。

代表団団長の白石大祐氏(財務省主計局企画管理課課長補佐)は、代表団を受け入れてくれたムウイラ院長に感謝を述べました。

代表団は、日本の納税者に説明する責任を果たすために、プロジェクトがどのように運用され、ザンビアに何をもたらしているのか現状を視察する必要がありました。

(次頁に続く)



チレンジエ一次レベル病院のリチャード・ムウイラ院長が、代表団に病院の運営について説明している様子。



法月正太郎博士が、チレンジエ一次レベル病院を訪問した代表団へ歓迎の挨拶をしている様子。



ルサカ州保健局のソフィア・ムシスカ氏が代表団に挨拶をする様子。



上:チレンジエ一次レベル病院訪問時の代表団による挨拶の様子。

下:代表団、ルサカ州保健局、チレンジエ病院スタッフ、プロジェクトの集合写真。



代表団に対して、法月チーフは、カシオペア・プロジェクトが目標とする成果である病院運営マネジメント、感染予防管理、必須医薬品及び医療材料と医療機器のマネジメントと対象5病院間の連携強化の活動を紹介しました。また、対象5病院で働く医療スタッフの能力を向上させるために、研修生を訪日研修に派遣したことを説明しました。

ムウェイラ院長は、日本が継続してザンビアの人々を支援してくれていることに感謝を述べました「日本政府はJICAを通じて、ルサカ市内の5病院の建設に貢献しただけでなく、カシオペア・プロジェクトで、病院スタッフの

能力強化を続けてくれている」と強調しました。

また、プロジェクトでバランスト・スコアカードの利用方法を学び、病院事務長などを訪日研修に派遣したことも説明しました。「日本で学んだ好実例のいくつかをザンビアの実情に合わせて導入できた。これは、病院の運営による影響を与える」と述べました。

ムウェイラ院長は「ザンビアでは若い人々が多く、病院施設が手狭になっている。日本政府とザンビア政府が施設の拡張を検討してくれるうれしい」と要望も伝えました。

州保健局のムシスカ氏は、「ザンビアでのコレラ大流行の際に、法月チーフを先頭に、カシオペア・プロジェクトが感染予防対策に尽力してくれたことを高く評価する」と述べました。

写真1: 観察終了後の代表団の団長白石大祐氏とJICAザンビア事務所、プロジェクトの専門家たちの様子。

写真2: 法月チーフアドバイザー、ルサカ郡保健局のチョールウェ・シアンチャパ氏、ルサカ州保健局のソフィア・ムシスカ氏、チレンジエ一次レベル病院のアベル・カベンバ氏、リチャード・ムイラ院長。



医療機器に関する医療関係者が医療機器ワークショップで一堂に会し、対象5病院での医療機器管理体制がルサカ州全域に普及する一歩となる

4月23日に、対象5病院は、医療機器管理の普及ワークショップに出席しました。このワークショップの目的は、対象5病院で試験的に実施した活動を共有し、ルサカ州全域に普及させることでした。ルサカ州全域から臨床工学技士(BMET)、医療機器技術者(MET)、診療部長(HCC)がパモジ・ホテルに集まり、関係者にとって大きな節目となりました。

この1年間、対象5病院は、試験的なプログラムに参加し、医療機器(MET)/臨床工学技門(BMET)の部門が医療機器の健全性と機能性をモニタリングするためのツールを使い始めました。例えば、医療機器のトレーサリストが導入されたことで、優先的に注目する医療機器が一覧となり、それらの機能性に関する週次報告を、ルサカ郡保健局に提出することが義務づけられ、郡保健局より州保健局へ提出する体制となりました。

なりました。トレーサリストは医療機器の機能性を4つに分類しています。ひとつ目は、正常に稼働しているもの、2番目は軽度の修理が必要なもの、3番目は大規模な修理が必要なもの、4番目は稼働していないものです。この報告書は毎週金曜日の15時までに郡保健局に提出されることとなっています。

もうひとつ、ジョブ・リクエスト・カードが導入されました。これは様々な機器の利用者が用いるツールです。各部門で機器の故障があれば、そのことを、臨床工学技門(BMET)、または医療機器(MET)部門に報告するために使います。ジョブ・リクエスト・カードのもたらす情報は、医療機器の修理やメンテナンスを担う職員が、頻繁にジョブ・リクエストがある部門を把握し、機器の耐用年数と比較する等して故障の原因を突き止めるきっかけともなります。

保健省のリチャード・ムサンカニヤ氏(臨床・診断サービス局長代理)は、冒頭の挨拶で、「国がかつてない水準で新しい医療機器を導入している今、このワークショップは、実によいタイミングで開催された」と述べました。また、ワークショップには、シムルヤマナ・チョオンガ氏(ルサカ州保健局長)とアストリダ・マセカ氏(郡保健局長)も参加し、医療機器のメンテナンスや修理の追跡を容易にするツールの標準化に期待と興奮をあらわにしました。

JICAカシオペア・プロジェクトの法月チーフは、ワークショップによる継続的な能力開発を通じた日本の支援を改めて強調しました。同じく専門家の塩田氏は、標準化されたツールに対する参加者の熱意に感謝し、このツールがより多くの人々に利用されるよう普及を担う保健省、ルサカ州保健局、ルサカ郡保健局の関係者に感謝しました。



参加者たちが、新たに導入された業務依頼カードについてグループディスカッションを行う様子。



法月チーフアドバイザーがワークショップの重要性についてメディアのインタビューを受ける様子。

より多くの対象病院が バランスト・スコアカードの戦略的マネジメント研修を実施

4月は、マテロ病院とチレンジエ病院にとって忙しい月でした。二つの病院にとって初めてのことでしたが、バランスト・スコアカード(BSC)を用いた戦略的マネジメントのトレーニングを開催したためです。BSCが効果的に導入されれば、病院は、目標とゴールを明確にした上で、タスクや活動の実施状況を追跡して、行動の結果を振り返れるようになります。

この研修は、マテロ病院では、4月10日から11日にかけて、チレンジエ病院では16日から17日と24日から25日の2回に分けて開催されました。冒頭の挨拶で、ルサカ郡保健局(LDHO)のアストリダ・マセカ局長は、スタッフのマネジメント能力を強化し、顧客サービスに良い影響を与えるこのツールを、病院の経

営陣が学ぶことを歓迎しました。

この2日間の研修で、参加者は、効果的な病院運営戦略のあり方とバランスト・スコアカードの目的と使い方を学びました。病院の管理者にとっては、日々の職場環境で直面している課題に対処する問題解決スキルを身につける機会ともなりました。

研修のファシリテーターは、エディス・バンダ氏(マテロ病院プランナー)、フローレンス・ムワンザ氏(病院事務長)、マージョリー・ンデメナ氏(ルサカ州保健局(LPHO)シニアプランナー)、プリシラ・マリ氏(ルサカ郡保健局シニアプランナー)、ムレンガ・チムワラ氏(ルサカ州行政局(LPAO)プランナー)の5名が務めました。彼らは、演

習を通して参加者に、問題の同定、問題解決、病院と部門レベルの問題に対する現実的な取り組み方を指導しました。

(下記へ続く)



アストリダ・マセカ氏が、マテロ一次レベル病院の戦略管理トレーニングで挨拶をする様子。



アグネス・ムイラ氏が、チレンジエ一次レベル病院の戦略管理トレーニングで参加者と交流している様子。

チレンジエ病院の研修は、4月16日から17日、24日から25日の2回に分けて開催されました。リチャード・ムワイラ院長による指導とファシリテーターの支援により、参加者は、戦略管理のツール、各部門の強み・弱みを同定する方法、それらを病院の顧客へのサービス提供に活用する方法を学びました。参加者は、グループワークで、同定した問題への取り組み方、戦略と計画の立て方を演習

しました。

研修の終わりに、参加者からは、「施設の人的資源の管理能力を高めるために、BSCの使い方だけでなく、戦略的マネジメントの最新の手法について、継続的な研修を求める声も聞かれました。

最後に、JICAカシオペア・プロジェクトのニヤンガ専門家は、「施設の全部門が戦略計画と病院運営の研修を受

けたことで、施設の計画プロセスだけでなく、ビジョンの達成にも強い関心を持つようになるでしょう」と述べました。また、この研修が、ザンビア政府がすべての政府施設に義務づけている、成果に基づく予算(OBB)計画の策定を含む2025年度の中間支出フレームワーク(MTBP)にも良い影響を与えると期待を寄せていました。

パブリックヘルス専門家と開発パートナー、コレラ対策の今後の進め方に合意

JICAカシオペア・プロジェクトの法月チーフは、4月8日から12日に開催された全国コレラ対策レビュー(IAR)会議に参加しました。この会議は、昨年からそれまでに700人以上の命を奪ったコレラの発生に対する政府と開発パートナーの対応の強みと弱みを評価することが目的でした。コレラ流行の緩和と阻止に携わる国家対策チームが一堂に会する機会となりました。

開会式では、保健省のケネディ・リシンピ氏(技術サービス担当事務次官)が、ルサカのヒーローズスタジアムに設置した国立コレラセンターの感染予防対策に尽力した法月チーフの活躍とJICAカシオペア・プロジェクトの功績を称えました。

ザンビア国立公衆衛生研究所が主導したこの会議には、第一線で働く労働者、複数のNGO、保健省からの様々な代表者が参加し、大流行中に何が上手くいき、何が上手くいかなかったかを議論しました。

また、アフリカCDC南部アフリカ地域拠点(RCC)のコーディネーターであるルル・リエク氏は、コレラとの闘いで、多部門横断的なアプローチを導入したザンビア政府の取り組みに祝辞を述べました。世界保健機関(WHO)現地代表のナタン・バカイタ氏は、雨によるリスクのみならず、下痢性疾患の原因となる干ばつにも警戒する必要があると訴えました。また、今回設置したコミュニティ組織の一部を解体しないことで、

潜在的な脅威を先取りし、コミュニティへの継続的なサービス提供につながるとして、政府を促しました。

会議の締めくくりに、リシンピ氏は、「政府とすべての開発パートナーによる継続的な対話が必要である」と強調しました。氏は、今回の会議で話し合われ、提言されたことを実行に移すには、政策文書にまとめあげる必要があることに触れ、開発パートナーの協力を求めました。



保健省のケネディ・リシンピ氏と法月チーフアドバイザー。



プロジェクトの法月チーフアドバイザーとルサカ州保健局のキャセル・チブーラ氏。

PHOTO FOCUS



プロジェクトの法月チーフアドバイザー、保健省のリチャード・ンサカニヤ氏、ルサカ州保健局のシムリアマナ・チュンガ氏、保健省のカレヤ・ムベウ氏。



チレンジエ一次レベル病院のトレーニングセッションのアイスブレイクの様子。



プロジェクトの日本人専門家と国内スタッフが、チレンジエ一次レベル病院で日本財務省と外務省からの代表団の挨拶を聞いている様子。



タージ・パモジホテルで開催された全国コレラ緊急対応レビュー(IAR)会議中のグループワーク。



マテロ一次レベル病院の戦略管理トレーニングワークショップに参加しているルサカ州保健局のマージヨリー氏。



タージ・パモジホテルで開催された医療機器管理ワークショップで、プロジェクトの塩田専門家が参加者が参加者に説明している様子。

編集・デザイン: コンベ カパタモヨ

編集: 緒方 敬

編集長: 村井 真介

連絡先

村井 真介 ルサカ郡病院運営管理能力強化プロジェクトチーフアドバイザー

**住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka,
10101, ZAMBIA**
Cell: +260 765 192 865 (official)



戦略・管理トレーニングにて、ニャンガ専門家がチレンジエ一次レベル病院スタッフへ説明している様子。